

地域材を利用した公共建築物の建設促進に係る調査研究

研究目的

北海道では、地域材利用推進方針を策定し、林業・木材産業の活性化と森林の適正な整備・保全の推進、そして木材自給率の向上を図るとともに、公共建築物での有効活用を進める必要があります。

地域材を利用した公共建築物の建設促進を図るためには、地域材を活用することの特性を理解・整理する必要があります。

本研究では、実際に木造で建設されている公共建築物の使用実態やコストなどに関する調査を行い、長期的視野に立って公共建築物の木造化・内装木質化の促進への提案を行うことを目的とします。

研究概要

公共建築物を木造化・木質化することによる効果の検証を行うために、木造公共建築物の現状調査と利用者に対するアンケート調査を行いました。

また、木造化による整備コストや維持管理コストの違いや特徴の検証を行うために、モデル建物（木造、RC造）のコスト試算、実建物のコスト調査や維持管理費、施設管理者アンケートなどの調査分析を行いました。

これらの調査等の結果を、公共建築物の木造、木質化のメリットやコスト、仕様選択の判断材料となるデータとして整理しました。

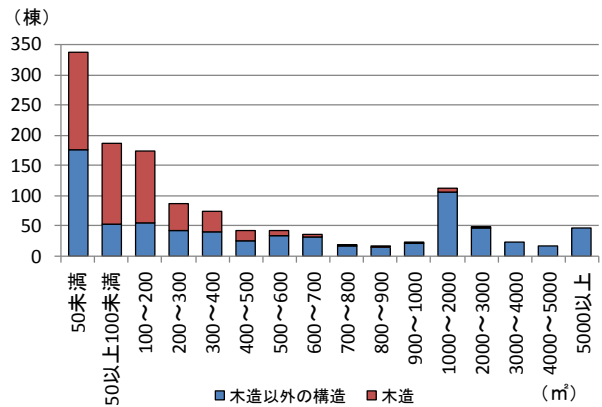


図1 市町村公共施設の構造別棟数 (H13~17)

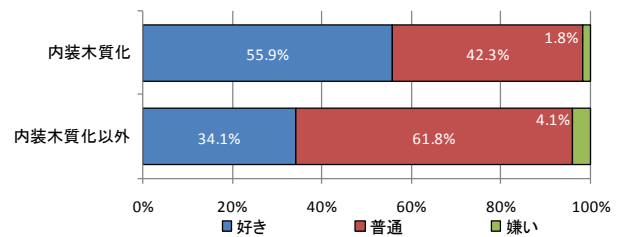


図2 施設利用者の内装床の好み

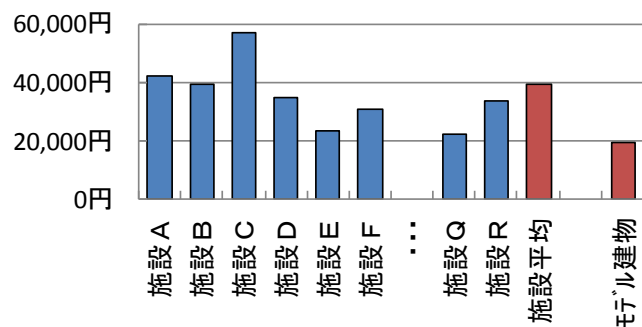


図3 木構造の㎡当たり工事費 (材工共)

研究の成果

公共建築物の木造化・内装木質化により、施設利用者に対して安心感を与えること、建設コストはRC造と大差ないこと、暖房にかかるコストが安くなっていることなど、様々なデータの把握により、道の公共施設木造化、内装木質化の検討の基礎資料をまとめることができました。また、木造化の利点や課題が明確になったことにより、道産木材の活用や林業を中心とした地域の活性化の検討に役立ちます。